

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K17586

研究課題名(和文)トランスプロフェッショナル教育モデルを用いた卒前医学教育プログラム開発とその検証

研究課題名(英文) Development and Validation of a Pre-Graduation Medical Education Program Using the Transprofessional Education Model

研究代表者

田中 淳一(Tanaka, Junichi)

東北大学・医学系研究科・講師

研究者番号：80643329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：2019年度まで半年間の医学部1年生向けプログラムが実施され、地域医療への関心を高める講義・教育企画が行われ、協調性やリーダーシップ育成を焦点とした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年度以降はオンライン教育に移行し、オンラインプログラムによる授業開発を進めた。オンライン教育ではリーダーシップ教育と地域医療への関心に焦点をあてたプログラムそれぞれでは効果をあげたが、それらを同時に持たせるプログラムを作成することができなかった。そのため、多くの成果を得るために、現地でのプロジェクト基盤型学習が望ましいとの結果が得られた。今後はオンラインと現地での学習の組み合わせが重要と考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現地でのプロジェクト型学習により、地域医療に対する興味喚起と医学生の協調性やリーダーシップ育成が地域医療の質向上に寄与する可能性があることが示唆された。また、オンライン教育が普及し、効果的な教育プログラムを開発・実施することによる、地域医療の課題に対処できる医療人材の育成が期待できます。ただし、オンライン教育の効果や限界が明らかになり、さらなる改善が求められ、ハイブリッド型の教育プログラムの有用性が考えられます。今回の学習プログラムは、地域社会や医療制度全体の発展に繋がる重要な要素となります。

研究成果の概要(英文)：Until the 2019 academic year, a six-month program for first-year medical students was implemented, focusing on lectures and educational projects to increase interest in regional medicine and develop teamwork and leadership skills. However, due to the spread of the coronavirus infection, the education shifted to online from the 2020 academic year onwards, advancing the development of online programs. While online education achieved positive results in leadership education and increasing interest in regional medicine separately, it was unable to create a program that combined both aspects simultaneously. As a result, it was concluded that project-based learning on-site would be preferable to achieve greater outcomes. Moving forward, a combination of online and on-site learning is considered essential.

研究分野：医学教育

キーワード：地域医療 リーダーシップ

## 1. 研究開始当初の背景

現在、国内においてへき地医療や地域医療に従事する医師の不足が深刻な問題となっている。申請者らは、初期研修中の従事経験が将来の進路選択に強い影響を与えること、地域医療に従事する進路選択には卒前に地域医療への興味をもつことが重要であること、地域医療においては医療と地域全体との関係を客観的に洞察する能力が重要であることなどが報告されている。

このことから、へき地医療や地域医療に従事する医師不足の解決には、卒前や研修早期に地域医療の理解を深め、地域に出て、地域を俯瞰的に洞察させることが必要であると考えた。

超高齢化社会となった本邦では、医療需要が拡大し、医療職だけで医療を支えることは困難になっている。欧米でも同様の問題が指摘されており、トランスプロフェSSIONAL教育(Transprofessional Education)の試みが始まっている(J Frenk, et al. Lancet 2010)。

このプログラムは、円滑な地域医療継続のために、これからの医療者教育は、介護・福祉を含めた医療専門職内のみでの連携教育(Interprofessional Education)ではなく、医療専門職を超えた幅広い年代の地域住民のみならず、社会・経済・司法などを含めた多様な専門職とも連携することが特徴である。

このプログラム受講により、医学生ならびに若手医師が、リーダーシップや異分野理解のみならず、多角的視野、変化に適應する力、分野横断的連携力などを養成することを目指している。オーストラリアでは、地域住民が積極的に医学教育に関わり、医療職と非医療職によるトランスプロフェSSIONAL教育を行ったところ、へき地に勤務する医師の増加や地域住民の健康格差の改善がみとめられた。へき地や地域医療に従事する医師の育成に際して、可能な限り早期(卒前医学教育の時期)に、非医療職を含めた多職種と課題を探索・共有し、解決策を模索する機会の需要は高まっている。

しかし、大学教育において、日本の現状に適した医療職と非医療職の協働に必要とされるスキルの学習機会はほとんどない。背景として、これまでの医学教育では医療職側と地域行政や企業、弁護士などを含む非医療職との接点が少なかったことや、医療職と地域住民の間で意見交換を行う機会が少なかったことなどがあげられる。

そこで本申請研究では職種の垣根を超え、医療職・非医療職協働を取り入れた卒前トランスプロフェSSIONAL教育プログラムを開発し、有用性を明らかにする。更に、最終的にへき地医療や地域医療への貢献につなげる基盤の構築を目指すことが重要である。

## 2. 研究の目的

本研究では、地域医療における医療職・非医療職間の協働を柱とした医学生対象の教育プログラムを開発し、その有用性を明らかにする。本研究では、多職種の支援を受け、広域俯瞰的な医療問題の発掘と解決の実践を通じて、地域医療への理解を深める「日本版トランスプロフェSSIONAL教育プログラム」を開発する。その中で、医学生と地域の非医療職との多職種協働作業により、地域を基盤とした医療課題の抽出と解決策を創出できる機会を設ける。そのために下記のことを明らかにする。

(1) 医学生が非医療職との協働で地域医療に関する問題抽出や課題克服を議論する機会を設け、リーダーシップや協調スキルなどを獲得するに至るかを明らかにする。

(2) 非医療職が医療をテーマにしたプログラムに参加することで、医療の理解を深め、ヘルスリテラシーが向上するかを明らかにする。

(3) 医学生が地域の医療機関外活動を行うことによって生じる、地域医療への関心と理解の変化を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 教育プログラムの策定

本教育プログラムは、医学生への地域協働にかかる知識・スキルを学ぶ講義、地域や地域医療の問題探索・解決を含むフィールドワークから構成される。講義では、医学生を対象に協働を行うために必要な社会人としての基礎力を培える内容を経営学講師らとともに選定する。フィールドワークは宮城県丸森町で実施する。以前に協力を得た丸森町役場、丸森病院、同町で地域創生事業を行う団体などと協力をとり、フィールドワークを行う地域側の体制を整える。

### (2) 参加者の募集

本教育プログラムに参加する医学生(1~6年生、計15名)を、東北大学、東北医科薬科大学、宮城県出身の自治医科大学医学生を中心に大学・学生団体を通じて全国公募する。

### (3) 参加者へのアンケート・インタビュー調査

参加する医学生の地域医療への関心、理解、連携に関わるスキルなどの変化、また非医療職のヘルスリテラシーの変化に関して、アンケート調査を行い、プログラム途中、終了後に参加

者に半構造化面接法でインタビューを行う。またアンケート調査は、地域医療への関心、理解はリッカート尺度を用い、連携に関わるスキルはKiSS-18、RIPLS(Readiness for Interprofessional Learning Scale)など、ヘルスリテラシーはEuropean Health Literacy Survey Questionnaire 日本語版などを用いてプログラム前後で評価する。

(4) 教育プログラムの評価

フィールドワーク後に、参加者から全体としての内容、満足度などの評価をアンケート形式、半構造化面接で参加者から聴取する。

4. 研究成果

(1) 教育プログラムの実施

東北大学で開講している1年生向けの「基礎ゼミ」の講義枠で実践を行った。「基礎ゼミ」は、文系・理系の学生を問わず、20人以下の比較的少人数の新入生を対象にして行われる全学教育で、教官と学生および学生同士が密接な人間関係を築きながら、学生が受け身ではなく主体性をもって参加する「Face to Face」の教育である。その中で、医学生を含む他学科を含めた学生への地域協働にかかる知識・スキルを学ぶ講義、地域や地域医療の問題探索・解決を含むフィールドワークから構成される。講義では、医学生を対象に協働を行うために必要な社会人としての基礎力を培える内容で構成した。フィールドワークは宮城県丸森町で実施し、丸森町役場、丸森病院、同町で地域創生事業を行う団体などと協力をとり、フィールドワークを行う地域側の体制を整えた。以下に2018年・2019年に実施した教育プログラムの概要を示す。

授業題名	概要
オリエンテーション + 「調べる・まとめる」を知る講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の自己紹介</li> <li>・レポート・発表のための準備</li> </ul>
「地域医療」「地域創生」を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の地域の紹介</li> <li>・講義（地域創生・地域医療）</li> <li>・地域フィールドワークの準備</li> </ul>
地域の実際を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に関わる人・医療に関わる人を知る。</li> <li>・講義（地域創生・地域医療）</li> <li>・地域フィールドワークの準備</li> </ul>
「地域医療」「地域創生」の発展を考える	丸森町へのフィールドワーク（1泊2日） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に関わる人へのインタビュー</li> <li>・地域医療に関わる人へのインタビュー</li> </ul>
「地域医療」「地域創生」の発展を考える」発表	上記内容を町役場、町関係者の前で発表

しかし、コロナウイルス感染が蔓延し、予定していた2020年の実施が実習自粛のため、実施できず、2021年は実施したものの、オンラインでの講義での対応しかできず、オンライン用に教育プログラムを実施した。以下にその概要を示す。

授業題名	概要
オリエンテーション+「調べる・まとめる」を知る講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の自己紹介</li> <li>・レポート・発表のための準備</li> </ul>
「地域医療」「地域創生」を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の地域の紹介</li> <li>・講義（地域創生・地域医療）</li> <li>・地域創生（まちづくり）に関わる人へのインタビュー</li> </ul>
地域医療の実際を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義（地域に関わる人・医療に関わる人）</li> <li>・地域医療・小規模医療機関院長へのインタビュー</li> <li>・地域調査</li> </ul>
「地域医療」「地域創生」の発展を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸森町への意見提言のための発表まとめ</li> </ul>
「地域医療」「地域創生」の発展を考える」発表	上記内容を町役場、町関係者の前で発表

### (2) 参加者へのアンケート・インタビュー調査

実施した教育プログラムでは、地域医療への関心・理解はプログラム前後で有意に改善した。しかし、2021年のオンラインでの教育プログラムでは、1年後の調査では維持できなかった。インタビュー調査では、講義として理解できたものの、実地で見学・体験をしておらず、印象深いものではなかったからではないかと参加者から指摘があった。

グループ間のコミュニケーション能力を測るためにKISS-18を採用し、プログラム前後での評価を行った。3回のプログラムの実施でいずれも上昇を認めたが、有意差は認められなかった。

フィールドワークに関わった非医療職の協力者の人数が少数で、アンケート用紙での前後比較の評価が難しいと考え、関係者へのインタビュー調査を行った。3名のインタビュー協力を得られ、結果として地域医療への関心が増したものの、ヘルスリテラシーの向上にはつながらなかった。フィールドワークで地域医療を題材にしたものの、医療職との関わりが少なかったのではないかと推測している。

### (3) 教育プログラムの評価

教育プログラム実践後にアンケート調査を行い、高い評価を受けた。

	2018年	2019年	2021年 (オンライン)
授業内容は系統的によく整理されて いましたか？	4.8(4.3)	4.9(4.3)	4.7(4.3)
説明はわかりやすかったですか？	4.9(4.2)	5.0(4.1)	4.8(4.3)
授業を進める深度は適切でしたか	4.8(4.2)	5.0(4.3)	4.6(4.3)
この授業で新しい知識や技能を 獲得できたと思いますか？	4.9(4.3)	4.9(4.4)	4.6(4.5)

この授業を総合的に判断するとどんな評価になりますか？	4.6(4.2)	4.7(4.2)	4.7(4.4)
----------------------------	----------	----------	----------

\* 5段階評価（5：高評価）、括弧内は他の基礎ゼミの講座の平均点

インタビュー調査では、フィールドワークや、オンラインでの地域住民や関係者の関わりが非常に高く評価していることが明らかになった。講義内のグループワークで、他の参加者と協力して取り組み、チームワークを醸成できた点も評価されていた。

改善すべき点として、講義そのものは、レポート・発表に向けての準備など、他の授業と重複している内容もあり、この教育プログラムだけでなくとも学ぶことができるのではないかと意見があった。地域と関わるためのフィールドワークにより焦点をあてた講義の方がよかったのではないかと提案があった。

・参考：メディア掲載  
2018年 広報まるもり 9月号

## 7/29 地域医療×地域創生 東北大の学生がまちづくりを考える



▲2日間、真剣に丸森町のことを考えてもらいました。

2019年 広報まるもり 8月号

東北大学の1年生が大学の授業のひとつである基礎ゼミ「地域医療×地域創生」の一環として7月28日と29日の2日間にわたって丸森町に滞在し、丸森町をより良くする方法を考えました。

学生の皆さんは、丸森病院の大友院長の講義を受けたり、地域でグループワークを行い、自分たちの目で見えて考えた丸森町を良くする方法を考えていました

2日目の発表では、学生の皆さんから、地域医療に限らず、情報発信の方法や、町外から見た丸森の魅力を織り込んだ様々な提案していただきました。

## 地域医療と地方創生 大学生がまちづくりを考える

東北大学医学部の学生が授業の一環として丸森町を訪れ、地域医療の視点から丸森町をより良くする方法を考えました。

学生たちは、町職員や丸森病院の大友院長、一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会の吉澤事務局長の話を聞き、丸森町の現状を学びました。その後、各グループに分かれ、丸森町を良くするためのアイデアを考えました。



▲大学生たちの目線から丸森町を分析しました。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Kushimoto Shigeki, Katori Yukio, Sugawara Noriko, Igarashi Kaoru, Fujita Motoo, Kure Shigeo, Takayama Shin, Abe Michiaki, Tanaka Junichi, Kikuchi Akiko, Abe Yoshiko, Imai Hiroyuki, Inaba Yohei, Iwamatsu-Kobayashi Yoko, Nishioka Takashi, Onodera Ko, Ishii Tadashi	4. 巻 255
2. 論文標題 COVID-19 Transmission at Schools in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 239 ~ 246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.255.239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Kushimoto Shigeki, Katori Yukio, Kure Shigeo, Igarashi Kaoru, Takayama Shin, Abe Michiaki, Tanaka Junichi, Kikuchi Akiko, Onodera Ko, Ishii Tadashi	4. 巻 11
2. 論文標題 COVID-19 transmission in group living environments and households	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 11616
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-91220-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Abe Michiaki, Masaura Atsuko, Tanaka Junichi, Takayama Shin, Onodera Ko, Numata Takehiro, Ishizawa Kota, Suzuki Satoko, Ohsawa Minoru, Kanno Takeshi, Ishii Tadashi	4. 巻 10
2. 論文標題 Somatic symptoms with psychogenic or psychiatric background: Characteristics and pitfalls	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Family Medicine and Primary Care	6. 最初と最後の頁 1021 ~ 1021
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4103/jfmpc.jfmpc_1100_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中 淳一, 照屋 周造, 近藤 猛, 柴田 綾子, 藤井 達也, 米岡 裕美	4. 巻 52
2. 論文標題 アクティブ・ブック・ダイアログを活用したオンラインキャリア教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 235-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中 淳一、照屋 周造、近藤 猛、柴田 綾子、藤井 達也、米岡 裕美	4. 巻 51
2. 論文標題 「転機」を体験するゲームを用いたキャリア教育実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 417～421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.4_417	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Tadashi, Kushimoto Shigeki, Katori Yukio, Kure Shigeo, Igarashi Kaoru, Fujita Motoo, Takayama Shin, Abe Michiaki, Tanaka Junichi, Kikuchi Akiko, Abe Yoshiko, Imai Hiroyuki, Inaba Yohei, Iwamatsu-Kobayashi Yoko, Nishioka Takashi, Onodera Ko, Akaishi Tetsuya	4. 巻 253
2. 論文標題 Predictors of SARS-CoV-2 Positivity Based on RT-PCR Swab Tests at a Drive-Through Outpatient Clinic for COVID-19 Screening in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 101～108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.253.101	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi Tetsuya, Abe Michiaki, Masaura Atsuko, Tanaka Junichi, Takayama Shin, Onodera Ko, Numata Takehiro, Ishizawa Kota, Suzuki Satoko, Ohsawa Minoru, Kanno Takeshi, Ishii Tadashi	4. 巻 10
2. 論文標題 Somatic symptoms with psychogenic or psychiatric background: Characteristics and pitfalls	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Family Medicine and Primary Care	6. 最初と最後の頁 1021～1021
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4103/jfmpc.jfmpc_1100_20	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tadashi Ishii, Shin Takayama, Michiaki Abe, Hitoshi Kuroda, Junichi Tanaka, Takehiro Numata, Akiko Kikuchi, Minoru Ohsawa, Souichiro Kaneko, Natsumi Saito, Ryutaro Arita, Yuko Itakura	4. 巻 58
2. 論文標題 Spontaneous Regression of Recurrent Undifferentiated Carcinoma of the Endometrium	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 1649-1653
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.0376-17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Tadashi, Takayama Shin, Abe Michiaki, Kuroda Hitoshi, Tanaka Junichi, Numata Takehiro, Kikuchi Akiko, Ohsawa Minoru, Kaneko Souichiro, Saito Natsumi, Arita Ryutaro, Itakura Yuko	4. 巻 -
2. 論文標題 A Case of Spontaneous Regression of Recurrent Undifferentiated Carcinoma of the Endometrium	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.0376-17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Junichi	4. 巻 3
2. 論文標題 Rashomon approach as educational method	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Asia Pacific Scholar	6. 最初と最後の頁 54 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29060/TAPS.2018-3-2/LE2032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部 倫明, 野崎 裕之, 中川 高, 八木橋 真央, 石沢 興太, 奥田 拓史, 赤石 哲也, 田中 淳一, 大澤 稔, 沼田 健裕, 菊地 章子, 高山 真, 奈良 正之, 小野寺 浩, 富田 博秋, 石井 正	4. 巻 14
2. 論文標題 大学病院総合診療科初診患者のうつ状態を評価するためのハミルトンうつ病評価尺度の有用性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本病院総合診療医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 556-563
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe Michiaki, Soga Temma, Obana Nobuya, Seiji Kazumasa, Tabata Masao, Saito Natsumi, Arita Ryutaro, Numata Takehiro, Tanaka Junichi, Kuroda Hitoshi, Takayama Shin, Kagaya Yutaka, Ishii Tadashi	4. 巻 8
2. 論文標題 Recommendation of Repeated Ammonia Tests for Intrahepatic Portal-Systemic Shunt Without Cirrhosis in Elderly Patients With Psychiatric Symptoms	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jpn Clin Med.	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1179066017693597	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 田中淳一
2. 発表標題 初期臨床研修における地域医療研修の学習環境評価
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩崎 淳也, 加賀谷 豊, 石井 誠一, 齋木 由利子, 田中 淳一, 石井 直人
2. 発表標題 コロナ禍における医学生のストレスとその解決方法に関する一考察
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中淳一
2. 発表標題 リベラルアーツ学修の場としての地域医療 東北大学の地域医療教育とリベラルアーツ教育の現状と新たな可能性の提案
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中淳一
2. 発表標題 東日本大震災後の被災地体験実習のキャリアに与える長期的な影響に関する アンケート調査
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中淳一
2. 発表標題 メッセージが込められた研修プログラムの使用状況(内科・総合診療)
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中淳一
2. 発表標題 医療職を超えた多職種連携活動「ヘルスケア・ハッカソンin丸森町」の教育的効果の検討
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中淳一
2. 発表標題 本邦におけるゲームを取り入れた医療者教育に関する文献的な考察
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junichi Tanaka
2. 発表標題 Educational effect of the multi-occupational collaborative “Healthcare Hackathon in Marumori” involving non-medical experts
3. 学会等名 16th APMEC (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junichi Tanaka
2. 発表標題 How Does Community Medical Training Influence Resident Doctors' Professionalism?
3. 学会等名 15th APMEC (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junichi Tanaka, Takehiro Numata, Hitoshi Kuroda, Michiaki Abe, Shin Takayama, Tadashi Ishii
2. 発表標題 Perception gaps between core teaching hospitals and cooperative training facilities regarding community medicine in Japanese clinical training systems
3. 学会等名 2017 AMEE (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中淳一、沼田健裕、黒田仁、阿部倫明、高山真、石井正
2. 発表標題 地域医療研修はプロフェッショナリズムの醸成にどのように寄与するか？
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 錦織 宏、三好 沙耶佳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 390
3. 書名 指導医のための医学教育学	

1. 著者名 飯田 淳子、錦織 宏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 医師・医学生のための人類学・社会学	

1. 著者名 綿貫 聡 (監修, 翻訳), 高尾義明 (監修, 翻訳), 錦織 宏 (監修, 翻訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 医師として知っておくべき マネジメントとリーダーシップの鉄則 24の訓え	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------